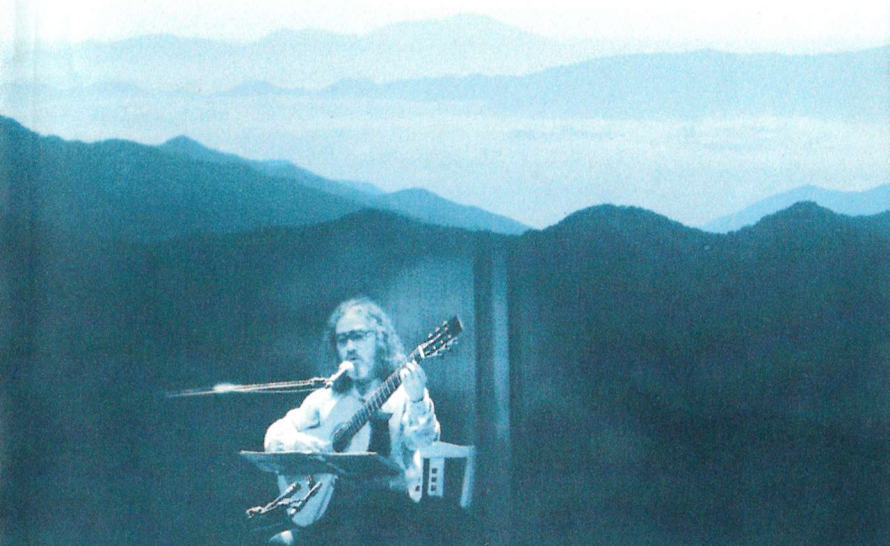


原風景  
&  
サントリーホールライブ

手仕事屋さち兵衛



TSC-0001 TSC-0002

手仕事屋さち兵衛／原風景&サントリーホールライブ

DISC-2 サントリーホールライブ

- 1 夏の思い出  
MC
  - 2 一つの日にかあなたと  
エッセイ 趣味
  - 3 風の桜衣
  - 4 五月は君の季節  
MC
  - 5 風景  
エッセイ むさくるしいボヘミアン
  - 6 色即是空  
エッセイ 幸せの押し売り
  - 7 サヨナラ恋歌(ワルツ)  
エッセイ 素なる自分  
MC
  - 8 わすれ雪  
MC
- EN とり

2002年7月28日 サントリーホール小ホールにて収録



DISC-1 原風景

- 1 一時の流れに
- 2 風の中
- 3 娘色、涙色
- 4 梅雨明け
- 5 恋時城下町
- 6 信濃路
- 7 恋は心のひとり舞い
- 8 故郷



DISC HANDS ON ENTERTAINMENT INC. 02-11-01 (L) (X) 再 03.10.31まで (P) 2002  
STEREO MADE BY HANS ON ENTERTAINMENT INC., JAPAN <2枚組>

このCDは、一定期間貸与非許諾商品ですが、この期間経過後も権利者の許諾なく貸貸業に使用すること、ネットワーク等を通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にすることを禁じます。また、個人的に楽しむなどの場合を除き、著作権法上、無断複製は禁じられています。

TSC-0001 TSC-0002

手仕事屋さち兵衛／原風景&サントリーホールライブ

手仕事屋きち兵衛 原風景&サントリーホールライブ

金作詞・作曲:手仕事屋きち兵衛 除く「改題」

DISC-1 原風景

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 1 - 時の流れに | 5 - 恋時城下町     |
| 2 - 風の中   | 6 - 信濃路       |
| 3 - 娘色、涙色 | 7 - 恋は心のひとり舞い |
| 4 - 梅雨明け  | 8 - 故郷        |



一人ぼっちの弾き語りには、全責任が自分一人にかかり、頼る人は誰もなく、孤独でしんどいものだが、木彫も、文章も、歌も、全ては表現方法が異なるだけの、自分のオリジナル作品だ、と考えているわたしにとって、その創作を一人ですることは、忘れてはならない大切な生き方だと思っている。

はじめて人前で唄ったのは、19才の時だった。木彫の道を志し、貧しかったわたしは、松本市内の地下にあった「ラ・ムーージュ」で、弾き語りのアルバイトをした。カラオケのない時代、週に三晩八時頃から夜半まで、酒と煙草に酔う大人達のなかで一人唄うのは、聴く人のないBGMがわりの孤独なものだった。そこで、シャンソンやカンツォーネ、歌謡曲

プロフィール

1949年長野県松本市生まれ。木彫家、シンガーソングライター、エッセイスト。86年NHK新ラジオ歌謡に「ねがい星」などが採用され作家デビュー。「わすれ雪」でシンガーソングライターとしても

DISC-2 サントリーホールライブ

2002年7月28日 サントリーホール小ホールにて収録

- |                            |                                      |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 1 - 夏の思い出<br>MC            | 6 - 色即是空<br>エッセイ 幸せの押し売り             |
| 2 - いつの日にかあなたと<br>エッセイ 趣味  | 7 - サヨナラ恋歌 (ワルツ)<br>エッセイ 素なる自分<br>MC |
| 3 - 風の桜衣                   | 8 - わすれ雪<br>MC                       |
| 4 - 五月は君の季節<br>MC          | EN とり                                |
| 5 - 風景<br>エッセイ むさくるしいボヘミアン |                                      |

やオリジナルなどを唄ったのだが、あれがわたしの歌の原風景だ。

あれから時が経ち、今はもうその店もなく、あの頃の状況も、あの頃の自分も、みな遠いものになってしまった。

幸せなことに、わたしは創作活動を通して、幾つもの夢を叶えることができた。サントリーホールのステージに立てたことも、その一つだ。あれもこれも自分一人の力でできたことではなく、あの方にもこの方にも感謝をしなければならぬ。

そして、これからも、あの原風景を忘れることなく、相変わらず、静かに丁寧にやっっていこうと思っている。

デビューし人気を集める。一時表舞台から身を引くがその選き通る声、キャリアに裏打ちされたメロディーと歌詞が作り出す唯一無二の音楽世界は、時代が求める究極の癒しと評され長野県内で絶大なる支持を得る。2000年より再びメジャーアーティストとして全国で活動を再開。

## 1 一時の流れに

知らないうちにこの世に生まれ いつの間にかここにこうしている  
 今を生きている理由が欲しくて 色々と探してはみるけど  
 言葉の中をさまようばかり この道だけが遠くつづいている  
 時の流れに全てまかせて  
 いつも 時の流れに ただいだかれて

生きてることの言い訳なんて 始めからないのかも知れない  
 愛し合う鳥達もただ唄い 流れる水のしずくもささやき  
 競い合い咲く花達も踊り ただこの命燃やしてるだけさ  
 時の流れに全てまかせて  
 いつも 時の流れに ただいだかれて

今日もどこかで愛が生まれて 男と女がそっと出会ってる  
 愛を語る時言葉は捨てて 想いのまま人を思いやり  
 静かに心あずけるがいい 愛を語る時言葉は捨てて  
 時の流れに全てまかせて  
 いつも 時の流れに ただいだかれて

## 2 風の中

風が吹く草の上 爽やかな色に変わった  
 季節のとびら抜けて 今甦る君  
 ミニスカートから素肌の脚を 伸びやかに投げ出す  
 ほくの胸ときめいて 君を見つめたまま

きらめいてゆらめいて差し込む 木もれ陽浴びてる  
 豊かな君の胸に眩しい 光文様  
 透ける髪の毛ゆるる耳元 まぶたを閉じている  
 ゆるやかに引き寄せて そっと君に口づけ

※かすかな吐息 風にからまり 時を忘れたまま  
 やわらかな君のくちびるで まどろみに落ちてゆく※

※～※くりかえし

### 3 一娘色、涙色

遠い遠い国から 落ちてくる  
青い青い哀しみ 誰れ泣かず  
あの娘の胸を濡らす あの娘のほほを濡らす  
泣いてる 泣いてる あの娘 涙色  
泣いてる 泣いてる あの娘 涙色  
おいでおいで涙を 持っておいで  
みんなみんな一人で 歩いてく  
哀しみを歌にして 寂しさを恋にして  
光ってる 光ってる 娘色 涙色  
光ってる 光ってる 娘色 涙色  
どこにどこに在るのか 幸福は  
誰れか誰れか連れてく あの娘  
微笑みが戻る時 暖い愛を知る  
消えてゆく 消えてゆく 思い出の涙色  
消えてゆく 消えてゆく 思い出の涙色  
消えていく 消えていく 娘色 涙色

### 4 一梅雨明け

乾いた風 燃える緑 季節がまた動いた  
誰もみんな浮いた調子 爽やかな笑顔だね  
梅雨が明けて 空がぬけた 青色のキャンパス

恋人達手をつないで 池のほとりを行けば  
旅ガイドのポスターみたい ぼくはちよいとジェラシー  
ぼんと蹴った石がはねて 水面にも輪をつなぐ

梅雨と夏のはざま(間)の中 ぼくは一人置き去り  
夏になれば恋の季節なのにまだ一人きり  
梅雨が明けて じれた気分 青色のメランコリ  
梅雨が明けて 空が抜けた 夏がもうのぞいてる



## 5 恋時城下町

今夜は二人で ゆれようか こんなにステキな夜は手放せなくて  
ほろよう気分で手を取れば 冷い風もなんだか 優しく吹くね  
女鳥羽川のほとり歩いてゆけば 水面に月影もかれる  
流れに沿って歩く 城下町 今は恋時

今夜は夜通し たどろうか 二人で作ったひみつの恋の道  
表の通りは変わっても 裏道ゆけばあの時みたいな明かり  
本町通り抜けて千歳橋 よみがえるあの日の二人  
通りめぐり歩く 城下町 今は恋時

今夜の仕上げは あの店で あの日と同んなじ席が空くのを待って  
あの日とおんなじ顔つきで あの日とおんなじワインを抜いて飲もう  
伊勢町までもどり駅前通り 二人の夜はまだながく  
思い出通り歩く 城下町 今は恋時

二人は今戻るあの頃に 若さにまかせてたあの日  
あの日を確かめて城下町 今は恋時

## 6 信濃路

陰り日がそっと知らせる夏の日の旅じまい  
しまい込むはずの荷物が 一つだけこぼれる  
信濃路の一人旅 いたみを捨てるはずの旅が  
それなのに また一つ拾った切ない心

秋風が吹けば 木の葉は朱色に染まり踊る  
染み込んだ夏の陽差しがにじみ出すみたいに  
信濃路の一人旅 いたみを癒やしてくれたのは  
こりもせず 再た落ちる 新しくときめく恋

枯れ落ち葉踏んで歩けば 吐息が白く消える  
あての無い迷い子みたいな心抱いて歩く  
※信濃路の一人旅 いつでも空しいくり返し  
思い出と憧れの 織りなす恋染模様※

※～※くりかえし

7 - 恋は心のひとり舞い

僕の胸の中にある ときめきの輪を拡げれば

あなたに届いたところで パチンとはじけ飛んでしまう

※恋は心のひとり舞い ゆれて ゆられて ゆらめいて

気がつけば ムー 空<sup>からまわ</sup>回り アー

もてあます 熱い想い※

僕の唄うこの歌も あなたにだけ捧げてるよ

信じられないくらいに次ぎ次ぎと あふれるメロディー

だけど唄えば唄うほど 何故かこだまが響くだけ

どうしたら ムー 抜け出せる アー

あなたへとつづく迷路

いつの日かきっと見つける どこかで君をつかまえる

方法があるはずだよ 信じてるそうさ信じてる

愛はあいまいに出来ない 想い込んだら命がけ

あなただけ ムー 夢見てる アー

正夢になって欲しい

※～※くりかえし

8 - 故郷

兎<sup>うさぎ</sup> 追いしかの山

小鮒<sup>こぶな</sup> 釣りしかの川

夢は今もめぐりて

忘れがたき故郷<sup>ふるさと</sup>

如何<sup>いか</sup>にいます父母<sup>ちちはは</sup>

恙<sup>つつが</sup>なしや友がき

雨に風につけても

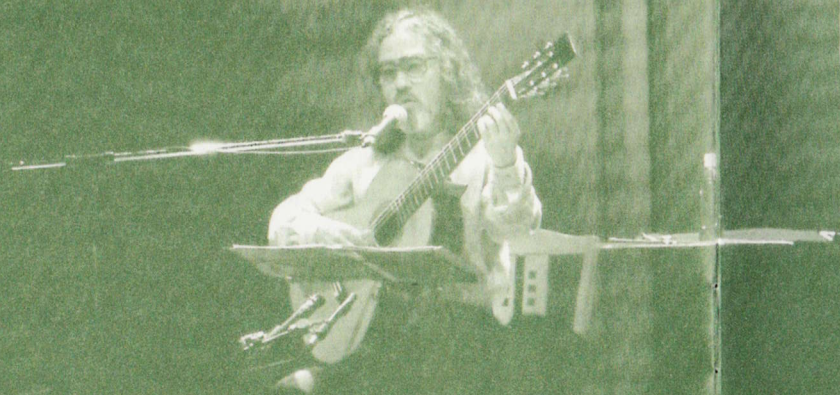
思いいずる故郷

ころざしをはたして

いつの日にか帰らん

山はあおき故郷

水は清き故郷



- |                          |                                    |
|--------------------------|------------------------------------|
| 1 夏の思い出<br>MC            | 6 色即是空<br>エッセイ 幸せの押し売り             |
| 2 いつの日にかあなたと<br>エッセイ 趣味  | 7 サヨナラ恋歌 (ワルツ)<br>エッセイ 素なる自分<br>MC |
| 3 風の桜衣                   | 8 わすれ雪<br>MC                       |
| 4 五月は君の季節<br>MC          | EN とり                              |
| 5 風景<br>エッセイ むとくるしいボヘミアン |                                    |

2002年7月28日 サントリーホール小ホールにて収録





手仕事屋さち兵衛コンサートスタッフ

Producer : 馬場信一 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

Sound Operator : 内田初雄 (アクセスオールエリア)

Assistant Operator : 山本知弘 (アクセスオールエリア)

Lighting Operator : 浜崎 亮 (アクセスオールエリア)

Tour Manager : 遠藤克信 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

山白謙一 郎 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

Artist Manager : 八尋隆夫 (ケイファイブ)

Special Thanks To : 黒川 暢 (アニメ)

太田茂孝 (アニメ)

下山直記 (桐生音協)

池田 均 (栃木音協)

小山博義 (ENNBOSS)

鈴木秋次 (ENNBOSS)

サントリーホール



原風景レコーディングスタッフ

Producer : 八尋隆夫 (ケイファイブ)

馬場信一 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

Vocal & Chorus : 手仕事屋さち兵衛

Arranged & Acoustic Guitar : 小畑和彦

Mixing Engineer : 渡辺洋一

Mixing Director : 生熊 朗

Recording Studio : スタジオ882

Photography by : 宮下常雄

Executive Producer : 菊地哲榮 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

白井 修 (HANDS ON ENTERTAINMENT)



サントリーホールレコーディングスタッフ

Producer : 馬場信一 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

Assistant Producer : 松村宏子 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

Recording Engineer : 内田初男 (アクセスオールエリア)

Mastered by : 山形一弘 (CD DESIGN)

Photography by : 吉田正道

Executive Producer : 菊地哲榮 (HANDS ON ENTERTAINMENT)

白井 修 (HANDS ON ENTERTAINMENT)



Cover Design & Art Direction : 乾 敬史

Cover Photography by : 山本建三

(取り扱い上のご注意) ディスクは両面録音、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱ってください。ディスクが割れたときは、おがくずのようなものをいれて内裏から外裏にのりをつけて両面に軽くおき取ってください。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないでください。ディスクは両面録音、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や線を書いたり、シール等を貼付しないでください。ひび割れや変形、又は接着剤等で糊付したディスクは、危険ですから絶対に使用しないでください。(保管上のご注意) 直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないでください。ディスクは使用後、元のケースに入れて保管してください。プラスチックケースの上に乗っかると、傷つけたり、変形したりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。